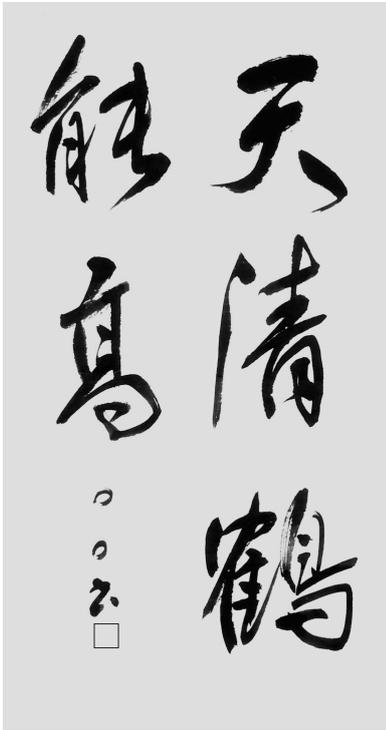


## 二科・三科参考手本

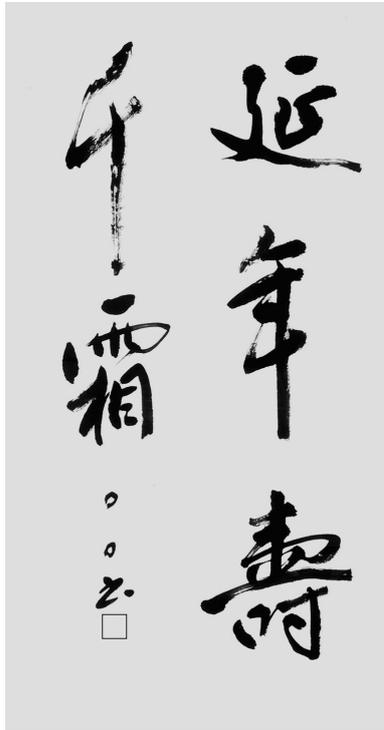
▶今年から二科・三科は、出品しやすい半切2分の1サイズになりました。課題は自由ですが、下掲の参考手本によりご出品いただくこともできます。

天  
清  
鶴  
能  
高



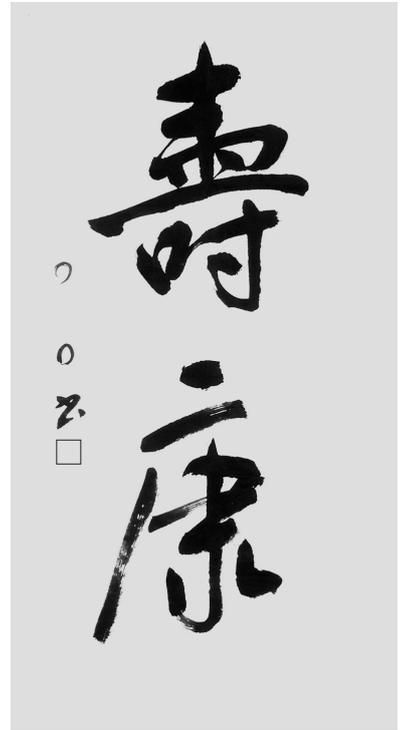
荻田蒼仙書

延  
年  
壽  
千  
霜



荻田蒼仙書

壽  
康



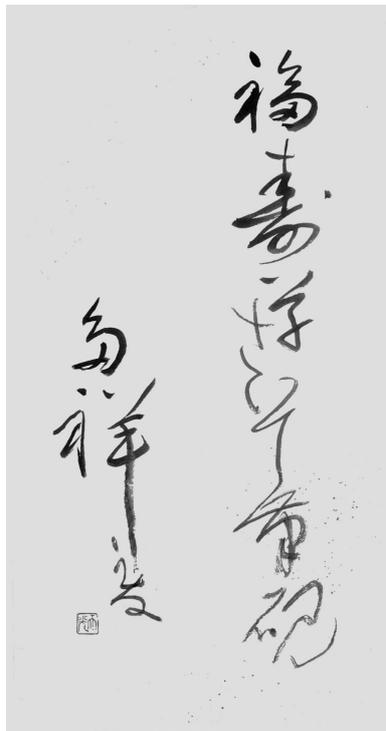
荻田蒼仙書

こぼるるは月の雫かうめの花 多代女の句を(市原多代女)



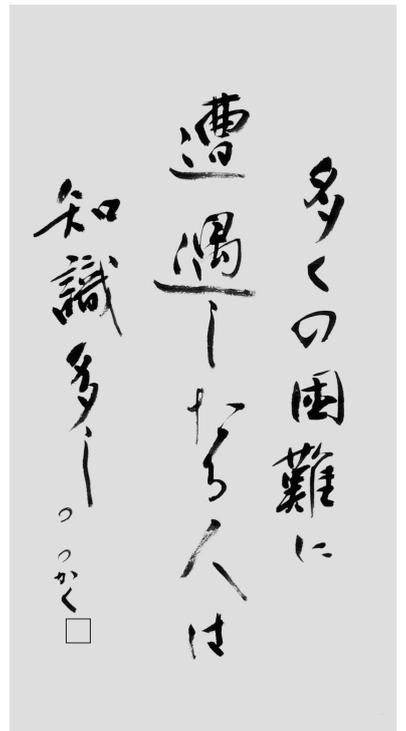
築瀬舟香書

福寿草咲いて筆硯多祥かな(村上鬼城)



飯沼天光書

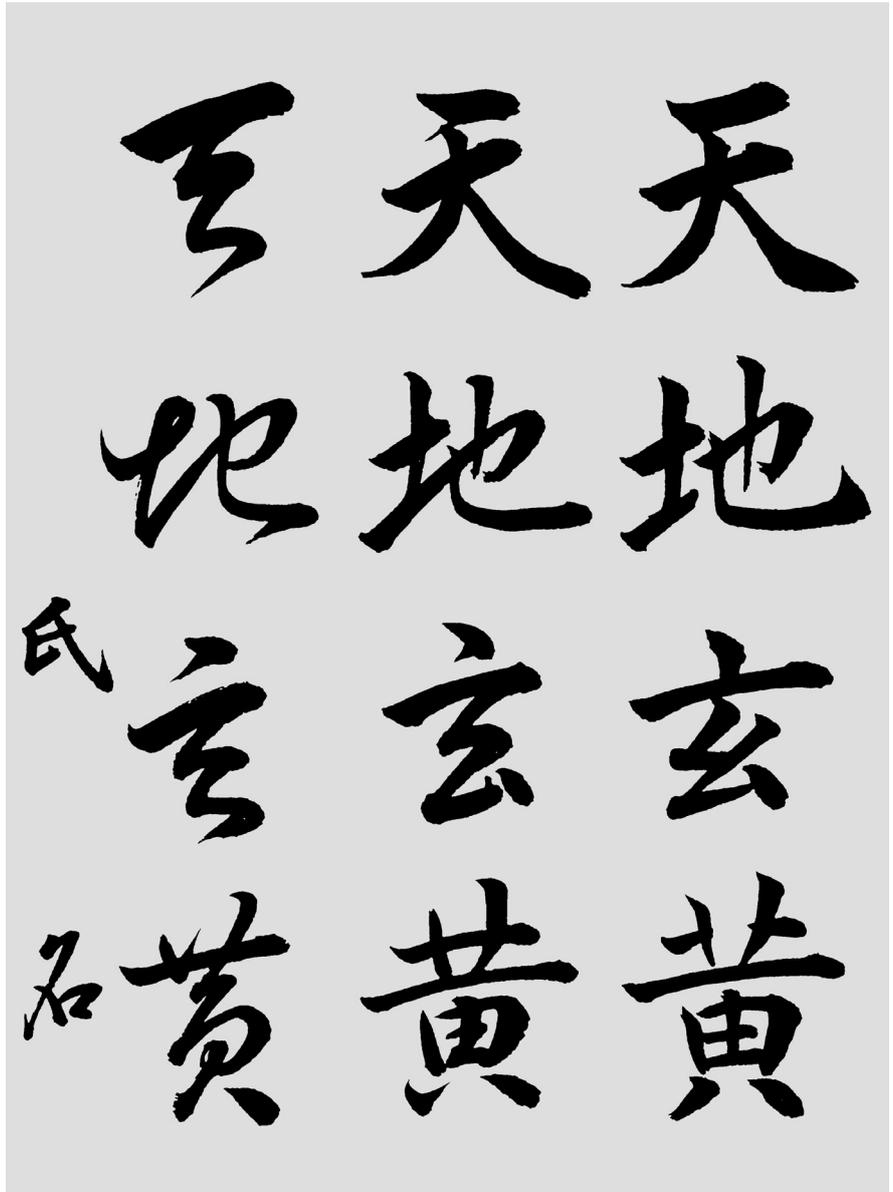
多くの困難に  
遭遇したる人は  
知識多し



荻田蒼仙書

三体千字文を書く(1)

締切り 一月二十五日(必着)



奥村憲照先生書

□作品の出し方

▼硬筆部 B5判(二五七mm×一八二mm)以下の紙に書いて下さい。用具は自由です。(黒色に限る)

▼毛筆部 半紙に書いて下さい。筆ペンも可能です。

▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬毛のどちらか一方に限ります。

▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績(毛筆の場合は毛筆漢字の成績)を、作品余白にお書き下さい。

▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

◆硬筆の専門誌だった大書心に一般毛筆部が設立されたのは、昭和五十六(一九八一)年四月のことです。

◆「三体千字文」の一課題からスタートしましたが、憲照先生の穩健中正で気品のある毛筆手本が好評を博し、「硬毛一致」の新しいスローガンを打ち立てて毛筆部の充実を図り、本会の発展へとつながりました。

◆原点に返って、基本用筆と正しい崩し方をしっかり学びましょう。

〔千字文〕

四言古詩二五〇句、重複しない千字からなっており、聖徳・修養・修身・齊家等について述べられた習字手本であり、初学者の教科書でもあった。

梁の武帝(在位五〇二〜五四九)の命を受け、周興嗣が王羲之の筆跡中からまとめたといわれる。

〔解説〕

天地玄黄

宇宙洪荒

天は黒く地は黄色であり、宇宙ははてしなく広い。

準初段から六段まで

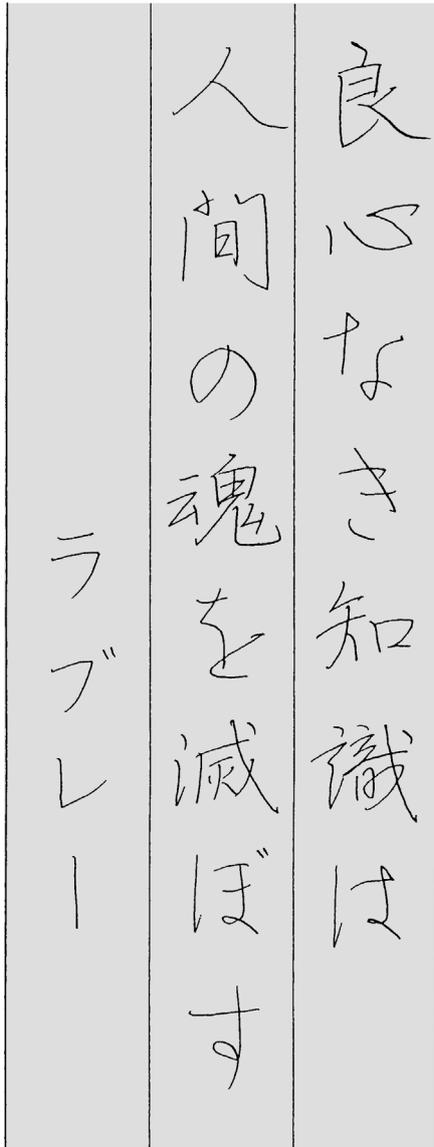
新入から1級まで

〔解説〕



◎行書体は、書法で「人が歩くが如し」といって、人が歩く姿にたとえられる。形体の動的な美しさを出すと共に人の歩くりズムで運べられるとよい。

▶教範・書範は右課題を「楷書」で、師範は「行草または草書」で出書して下さい。

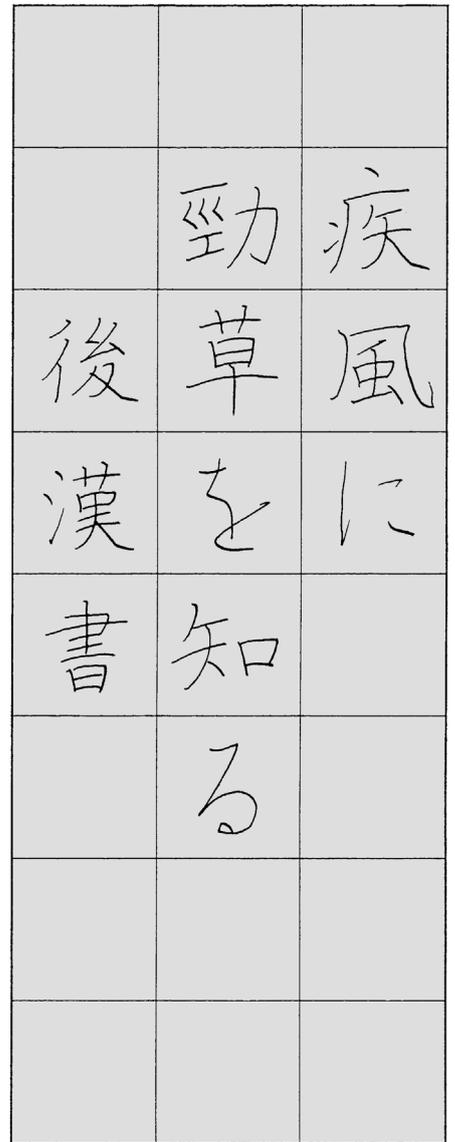
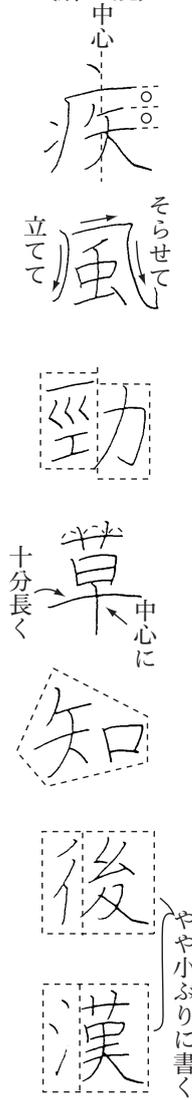


おか だ りゅう ほう 書  
岡 田 龍 芳 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

〔解説〕



おお たに せい じょう 書  
大 谷 清 城 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

- ◆2月課題予告(行草または草書)  
富貴にして苦あり  
貧賤にして  
楽しみあり
- ▼教範・書範Ⅱ行書
- ▼師範Ⅱ行草または楷書

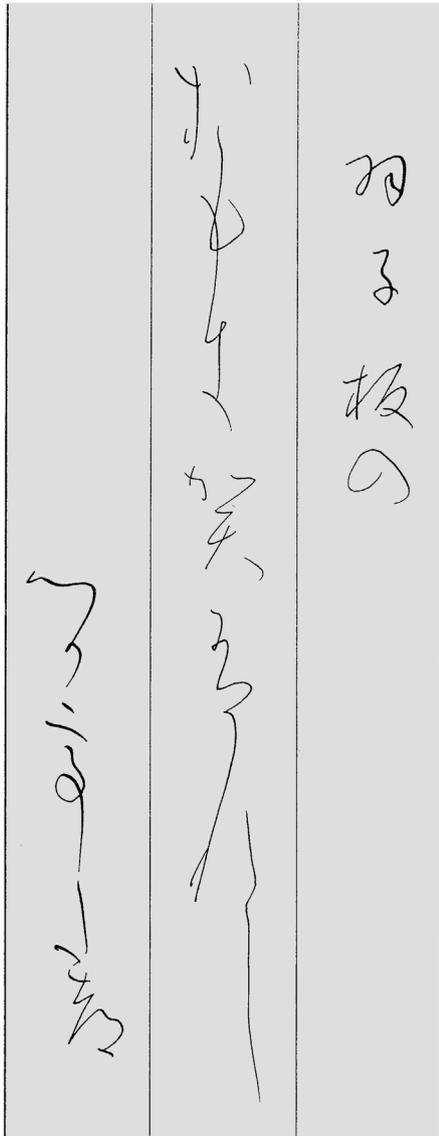
★良心…(書体Ⅱ行書)  
ラブレター(四四頃〜五三頃)  
フランスの作家  
知識というものは、人が良心をもつて扱って初めて有効に活用できるもので、良心をもたずに利用すれば、人の魂を滅ぼすことになります。  
科学の進歩は生活を便利に豊かにしましたが、一歩間違えば、人類を破滅させる力を持っていることを肝に銘じておかなければなりません。

◆2月課題予告(行書)  
我が家の  
米の飯より  
隣の麦飯

★疾風…(書体Ⅱ楷書)  
『後漢書』より 中国の正史、二十四史の一つ。全二二〇卷。  
勁草は強い草のこと。風がない時には草の強弱はわかりません。強風が吹いて弱い草が倒れた時、初めて、強い草の存在がわかります。  
同様に、困難な事態にぶつかった時、初めて人の真価が問われるというものです。そして人は、困難を乗り越えてこそ成長し、強くなっていくのです。

準初段から六段まで

新入から1級まで

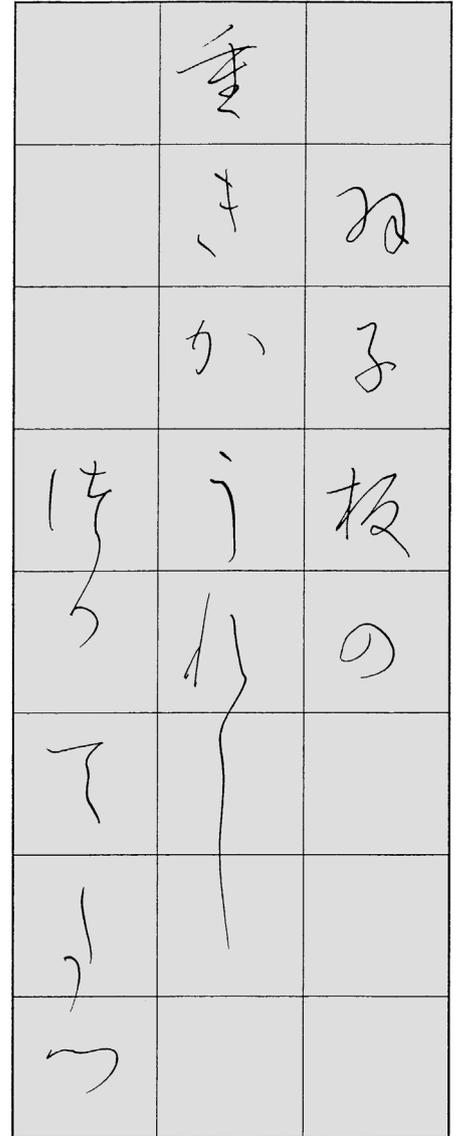


羽子板の重きが嬉し突かて立つ

おお みや しゅん ちやう 書  
大 宮 春 兆 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙



羽子板の重きが嬉し突かて立つ

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。

おお みや しゅん ちやう 書  
大 宮 春 兆 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

羽子板の重きが嬉し突かて立つ

(長谷川かな女)

〔句意〕美しい押し絵で飾られた、大きな羽子板を胸に押しあて大事そうに抱え持って、遊びの中に入って羽根を突くこともせずに、羽子板の重さをじつと味わい、嬉しそうにたたずんでいることである。

〔古筆参考〕

於お 於お 於お  
賀か 賀か 賀か  
有う 有う 有う  
徒っ 徒っ 徒っ  
都っ 都っ 都っ  
亭て 亭て

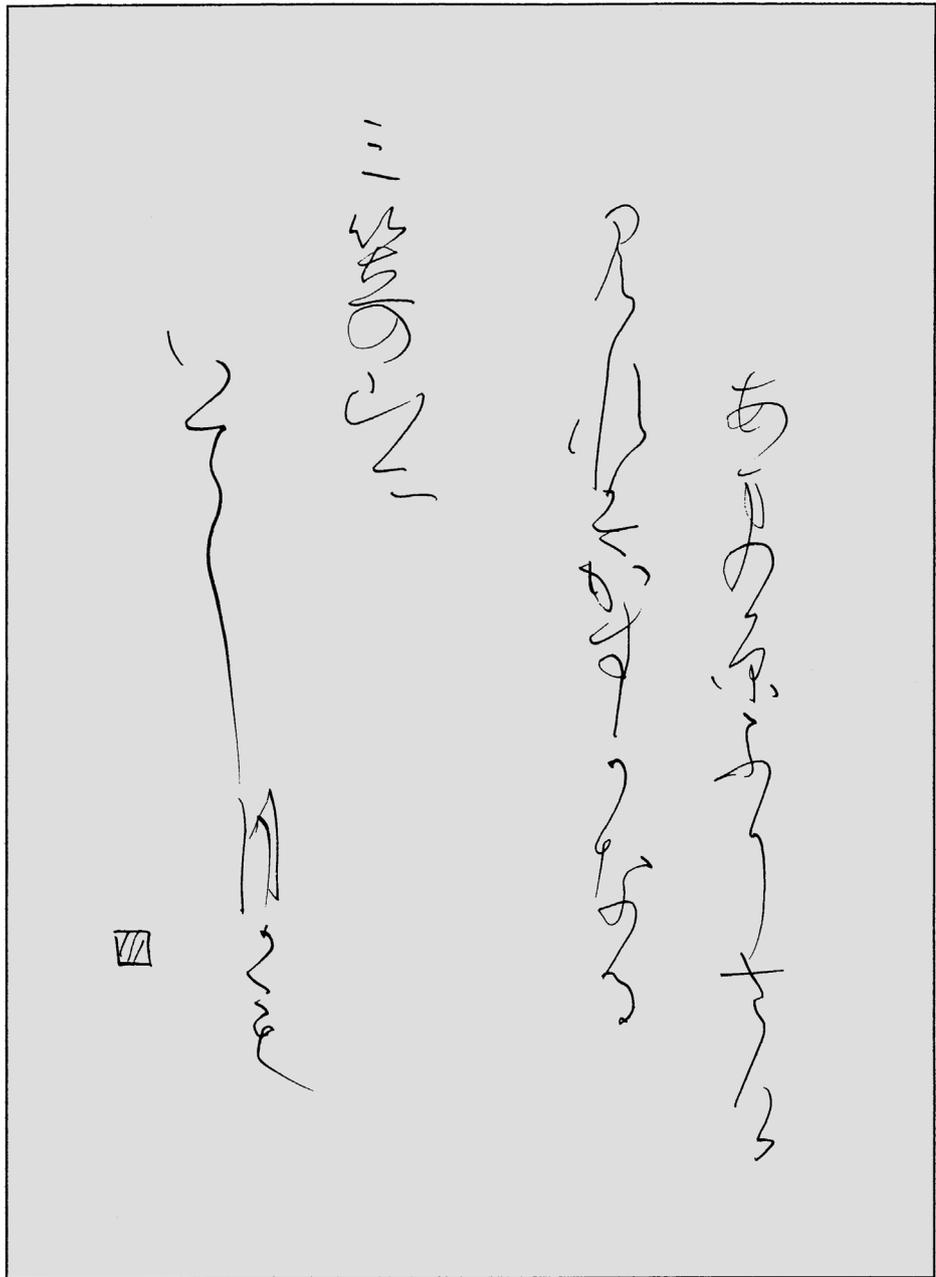
◆2月課題予告

春寒し水田の上の根なし雲

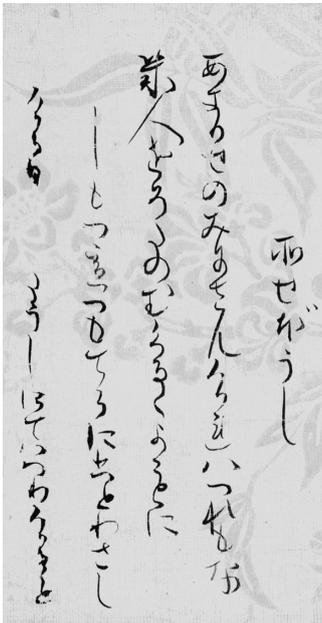
(河東碧梧桐)

締切り 一月二十五日(必着)

築瀬舟香書



[古筆参考]  
ほんあみぎれ  
本阿弥切



所  
そせいほうし

文可  
あきかぜのみにさむければつれもな  
幾  
き人をぞたのむくる、よごとに  
しもついでもでらにひとわざし

介  
ける日、だうしにていへりけること

「はじめに」  
今年も皆様とご一緒に一年間「かな」作品の勉強をさせて戴く事になりました。歌は「古今集」の中から「羈旅の歌」を中心に平安時代に想いを馳せながら、味付けに「本阿弥切」を入れて作品を作っていく事に致しましょう。一年間よろしくお願い致します。

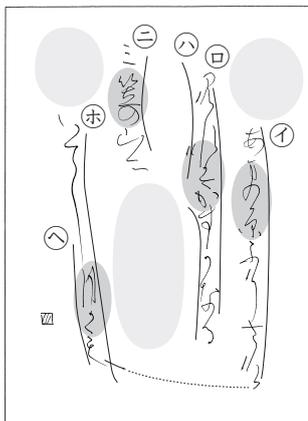
羈旅の歌  
あべの 仲麿  
天の原ふりさけ見れば春日なる  
三笠の山にいでし月かも

〔歌意〕 大空はるかにふり仰ぐと、あれは昔、春日の三笠山から出たのと同じ月だ。

〔出典〕 古今和歌集

(新潮日本古典集成)

〔解説〕



- ①と②、④と⑤、①と③、④と⑥、①と④、②と③、③と⑥、④と⑦、①と②、①と⑤、①と⑥、①と⑦、①と⑧、①と⑨、①と⑩、①と⑪、①と⑫、①と⑬、①と⑭、①と⑮、①と⑯、①と⑰、①と⑱、①と⑲、①と⑳、①と㉑、①と㉒、①と㉓、①と㉔、①と㉕、①と㉖、①と㉗、①と㉘、①と㉙、①と㉚、①と㉛、①と㉜、①と㉝、①と㉞、①と㉟、①と㊱、①と㊲、①と㊳、①と㊴、①と㊵、①と㊶、①と㊷、①と㊸、①と㊹、①と㊺、①と㊻、①と㊼、①と㊽、①と㊾、①と㊿
- 行の中の密の部分(高まり)、一行の中の粗密に注意。
- 作品の中の大きな間、大切。
- の方向大切。(指向性)

◆2月課題予告

糸によるものならなくに別れ路の心ほそくも思ほゆるかな

締切り 1月25日(必着)

去年就職したばかりの息子が初の冬のボーナスで、一泊二日の温泉旅行を企画してくれました。「両親への感謝をこめて」という言葉に甘えん坊だった息子の成長を感じ胸がいっぱいになりました。

去年就職したばかりの息子が初の冬のボーナスで、一泊二日の温泉旅行を企画してくれました。「両親への感謝をこめて」という言葉に甘えん坊だった息子の成長を感じ胸がいっぱいになりました。

◎手本は水性ボールペン使用

作品の出し方

- 新人から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横書き課題

おか じま けい せん 書  
岡 嶋 桂 川

ピラミッドは、古代エジプトの王の墓で、カイロ付近に多くある。

さがえ  
山形県寒河江市 氏 名

※手本は、つけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

締切り 1月25日 (必着)



隆 止 帝 道 仁 克

準初段から師範まで

奥村暢之臨

〔出典〕孔子廟堂碑 (626~633) 〔筆者〕虞世南 (558~638)

〔読み〕 (吹万は) 歸仁す。克く帝道を隆んにし、

萬 物 生 光 輝

新入から1級まで (楷書)

澤 静雨書

〔読み〕 萬物光輝を生ず

〔大意〕 春になって何もかも多くの物がひかりを發揮した。



締切り 一月二十五日(必着) 半切(一三六cm×三五cm)

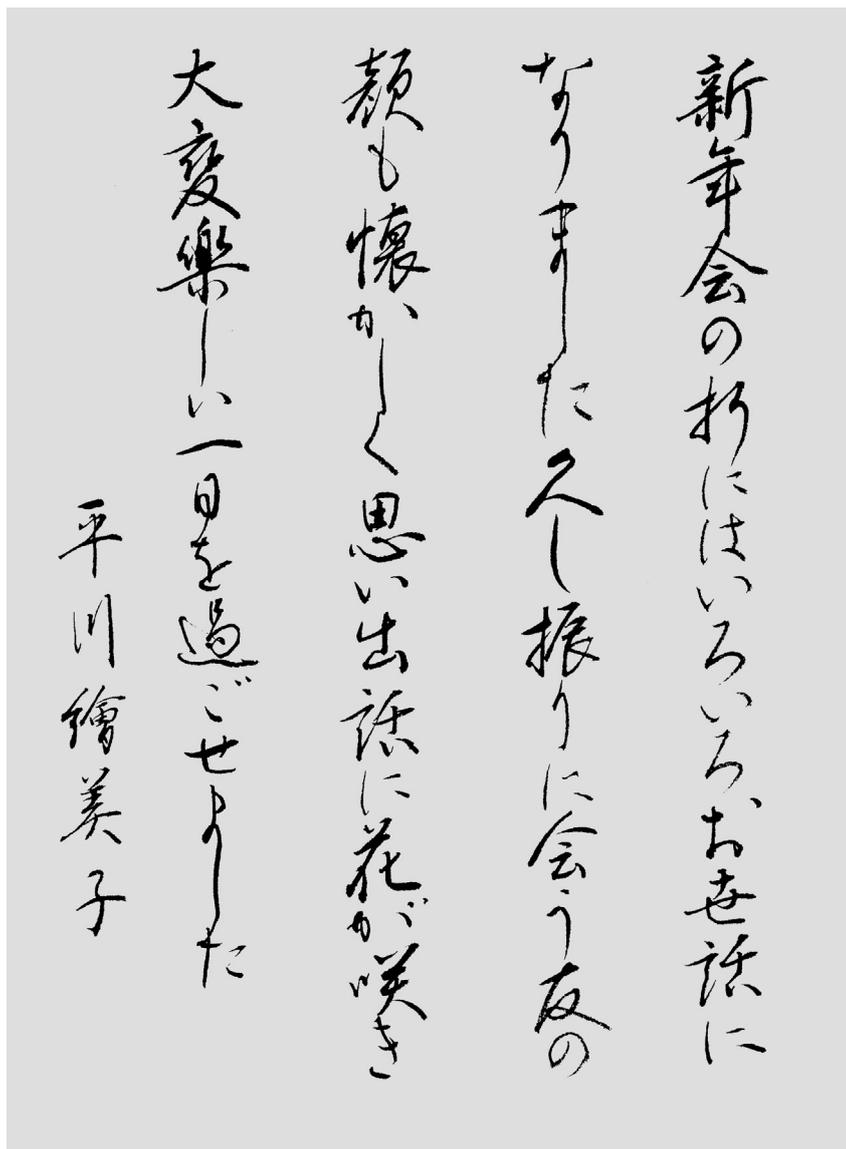


荻田蒼仙書

松静鶴留聲

〔大意〕松色静かで其処に鶴が鳴いているというめでたいことば。

初出品の方へ  
支部名・会員番号・  
姓名・毛筆漢字成績  
を、作品左下に必ず  
お書き下さい。



書 華 玲 田 樋

半紙(334mm×240mm)

〔条幅解説〕 著名な人間国宝の方が、師が亡くなった時叱ってくれる人が居なくなると、悲しんだそうです。まして私如き者は、叱ってくれる方を求めて、大切に仰いで、辰年を送りたいと持っています。

・新年会の折にはいろいろのお世話になりました。久しぶりで会いに会う友の顔も懐かしく思い出話に花が咲き  
大変楽しい一日を過ごせました  
(ご自分の氏名)  
・印で墨つきしました。

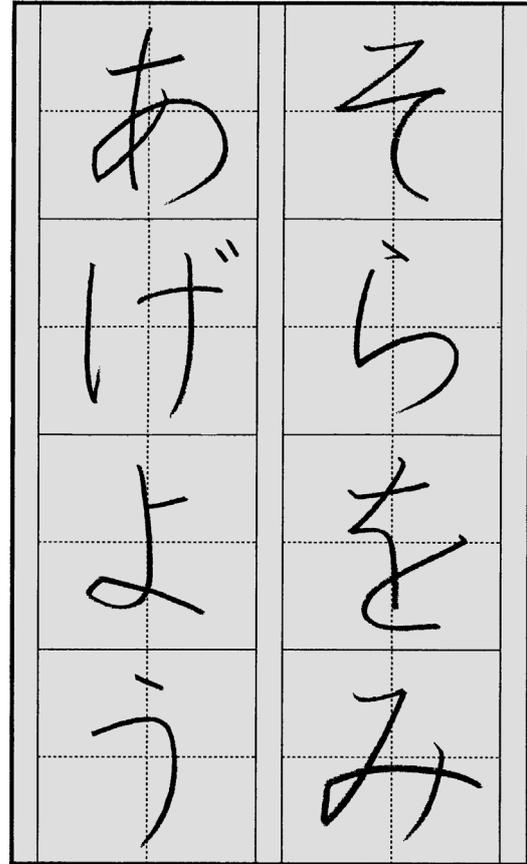
〔条幅・細字作品の出し方〕

■ 新入から師範まで、どなたでも出書できます。

■ 成績(天位〜5等)は、評価により毎月変わります。

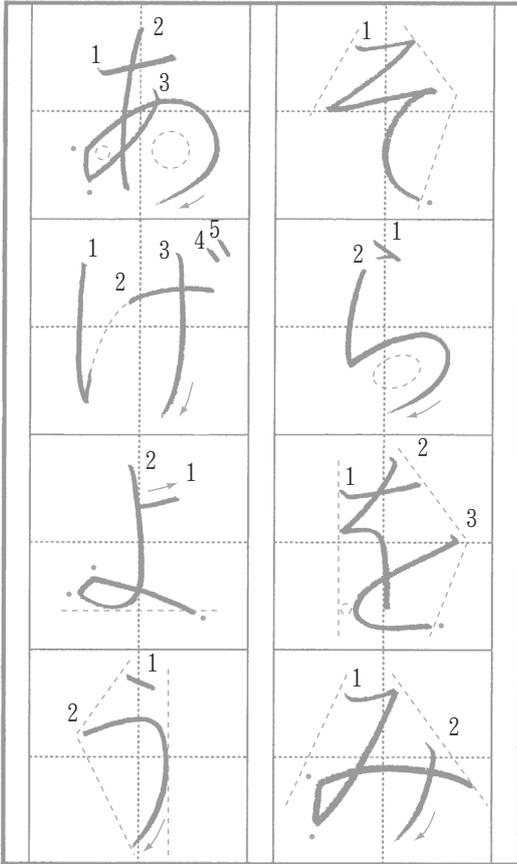
■ 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

よ  
う  
年



★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。  
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。

◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)



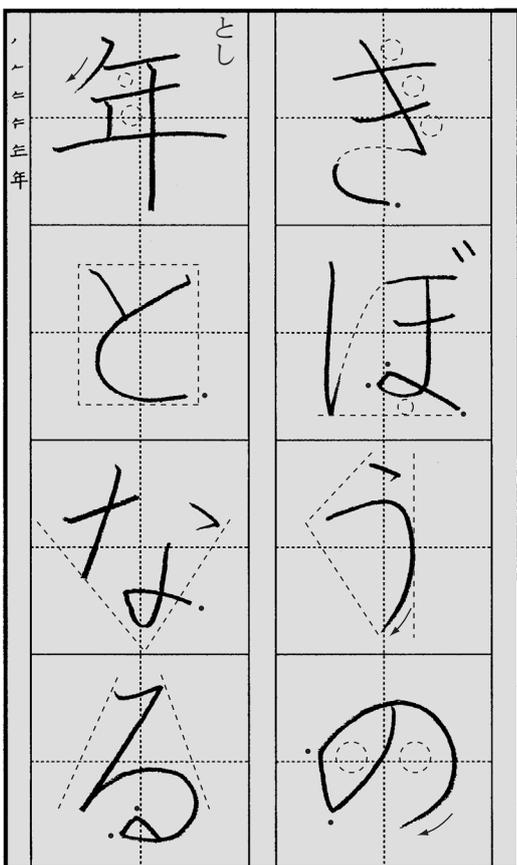
〈ようぐく〉自由(黒色にかざる)

小  
一  
年



(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

新入〜1級



幼年〜小三年まで  
三宅容玉書

準初段以上

〈ようぐく自由〉(黒色にかざる)

く	今 <small>いま</small>
生 <small>い</small>	こ
き <small>き</small>	そ
る <small>る</small>	強 <small>つよ</small>

ノ人々今  
ノ人々生  
子強強強強

新入1級

し	生	今
め	き	こ
そ	る	そ
う	力	強
よ	を	く

小二年

準初段以上

の	思 <small>おも</small>
気 <small>き</small>	い
持 <small>も</small>	や
ち	り

ノ人々気  
打打持持持

新入1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

持	い	感
ち	や	し
大	り	や
切	の	と
に	気	思

小三年

準初段以上

〈用具〉自由(黒色に限る)

ニ千禾和和和	和	セ	世
一丁戸原願	を	カイ	界
	願	ねが	の
	う	ヘイ	平

新入1級

う	を	世
初	心	界
も	か	の
う	ら	平
で	願	和

小四年

準初段以上

小四以上 須田一葉書

いきお(い)	勢	モク	目
ゼン	前	ヒヨウ	標
シン	進	タツ	達
		セイ	成

解説(よく見て習いましょう)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

よ	た	目
く	め	標
前	に	達
進	勢	成
だ	い	の

小五年

(全員)

小六年

合	を	東
う	願	北
尊	い	の
い	助	復
心	け	興

(全員)

解説(よく見て習いましょう)

助 <small>たす(け)</small>	東 <small>トウ</small>
合 <small>あ(う)</small>	北 <small>ホク</small>
尊 <small>とうと(い)</small>	復 <small>フツ</small>
心 <small>こころ</small>	興 <small>コウ</small>

自由(黒色に限る)

中一年 (楷書)

堅	を	日
実	見	本
な	据	の
歩	え	未
み	た	来

中二・三年 (行書)

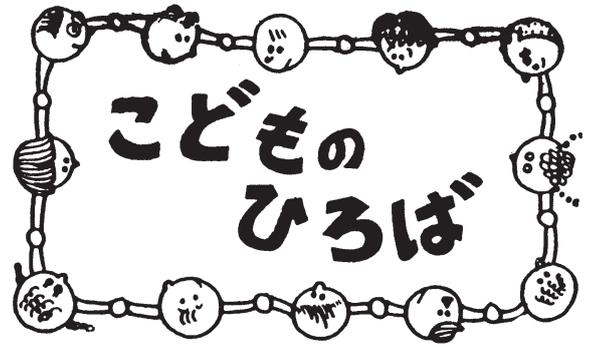
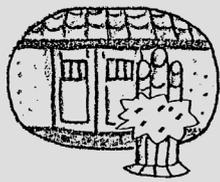
て	夢	初
突	に	志
き	向	を
進	か	貫
む	つ	き

◎お手本は、15マスはつけペン、8マスはデスクペンで書きました。

▼小三年以下の課題 に二 みや たい こう 光 書

か	大	家	お	お			
ざ	き	の	じ	正			
り	な	前	い	月			
ま	門	に	ち	に			
す	ま		や	は			
	つ		ん				
	を		の				

◎お手本はえんぴつ使用



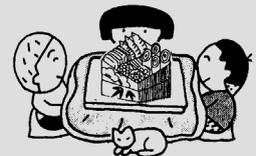
しめきり 1月25日(必着)

習っていない漢字は、  
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題 くわ ぼら えい うん 桑 原 栄 雲 書

一	笑	団	お	こ			
家	顔	ん	節	た			
団	が	で	料	つ			
ら	絶		理	で			
ん	え		を				
	な						
	い						

◎お手本はつけペン使用



◇作品の出し方

- 一、選定用紙(五行・四行)に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名(校名)学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。(黒色に限る)
- 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。



小 二 年

小 一 年

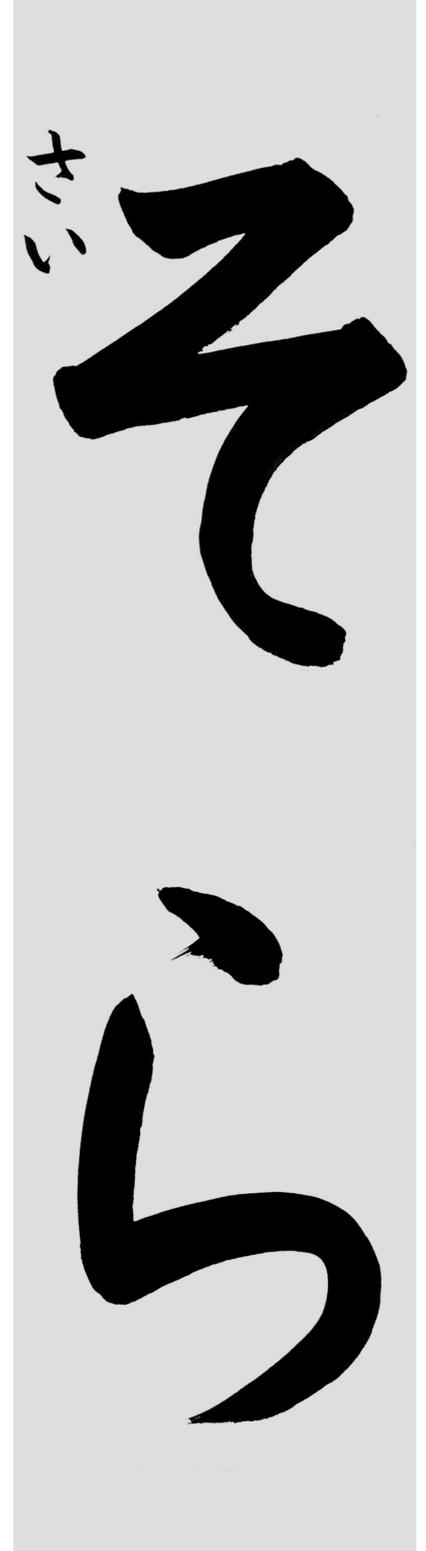
よ う 年



たま きしょう か  
玉樹小華書



たま きしょう か  
玉樹小華書



たま きしょう か  
玉樹小華書

注：コンクール作品は月例競書と兼ねる事ができません。  
両方に出品される方は、二枚お送り下さい。

◆ 1月締切りの課題は、「全国書道コンクール」に合わせて、半切4分の1  
(68cm×17.5cm)に書くか、いつものように半紙に書いてもよろしい。

小 五 年

小 四 年

小 三 年



みずのこうちく  
水野香竹書



みずのこうちく  
水野香竹書



みずのこうちく  
水野香竹書

注…コンクール作品は月例競書と兼ねる事ができません。  
両方に出品される方は、二枚お送り下さい。

◆1月締切りの課題は、「全国書道コンクール」に合わせて、半切4分の1  
(68cm×17.5cm)に書くか、いつものように半紙に書いてもよろしい。

中二・三年

中一年

小六年

中二  
 初志を貫く

おくむらのぶゆき  
奥村暢之書

中一  
 堅実な歩み

おくむらのぶゆき  
奥村暢之書

小六  
 復興願う

おくむらのぶゆき  
奥村暢之書

注：コンクール作品は月例競書と兼ねる事ができません。  
両方に出品される方は、二枚お送り下さい。

◆1月締切りの課題は、「全国書道コンクール」に合わせて、半切4分の1  
(68cm×17.5cm)に書くか、いつものように半紙に書いてもよろしい。